

花もあった、草紅葉にもなっていた、大きな存在感 尾瀬・燧ヶ岳

実施日 2012年9月16日(日)～17日(祝)
 天 候 16日 晴れたり曇ったり
 17日 朝のうち曇り(霧)後晴れ
 リーダー 遠井 謙策
 参加者 鈴木恵美子、石附智江、渋谷賢寿、渋谷京子、遠井謙策、伊藤久雄、長濱隆行、長濱あゆみ、松丸恵美子、石附智子、天野拓郎 計11名
 費 用 交通費 10,520円、宿泊費 9,500円 計20,020円
 タイム 16日 代々木BT(7:20)鳩待峠(12:26～12:38)山の鼻(13:26)十字路分岐(14:24)ヨッピー橋(15:06)元湯山荘(15:50) 泊
 17日 山荘(5:00)見晴(5:26～5:48)尾瀬沼分岐(6:03)柴安岳・燧ヶ岳山頂(9:19～9:30)鞍部・昼食(9:46～10:05)俎岳(10:16～10:25)熊沢田代(11:40～12:00)広沢田代(12:47～12:56)御池(13:45～14:30)バス・鉄道乗継で帰宅

9/16 参加イレブンのスタートはまず尾瀬ヶ原。

家族連れが目立つ中、「コンニチワー」と元気な声で挨拶を交わし広い湿原を行く。後ろの至仏山、前方の明日登る燧ヶ岳とも、雄姿は見せるが山頂は白いベールで隠されている。足元の池塘に目



をやれば、ヒツジグサが可愛らしく咲いている。吾亦紅^{われもこう}やらウメバチソウ、オオニガナもそれなりに盛りの過ぎた湿原を



彩る。雲の流れは速く青空と曇天が追い駆けっこ。時折り霧の様な雨がサーッと過ぎていくが、お陰様で綺麗な虹が登場皆の歓声が上

がる。

夕闇迫る頃、意外と長い木道歩きに思わぬ疲労を感じ、今日の宿元湯



山荘に到着。お風呂に浸かった後、外の



ベンチでささやかな宴会を催す我々に、主人から煮込みのサービス。

これが引き金

となり初日から盛り上がってしまい、皆の弁舌は益々さわやか。明日を夢見る暇もなく深い眠りに。

9/17 さて翌日。さすが若い。颯爽と身支度を整え、山荘主人に見送られ予定通



り5時に宿を出発、見晴新道を登る。

鬱蒼たる樹林帯をゆっくりと行く。

鳥の音がする。ぬかるんで歩き難いとの案内だったが雨が少ないのか大変歩き易い。ただやはり単調できつい上りは噂通り、何度も休憩を取り水



や甘いものを摂取する。始めは歌やおしゃべりで賑やかだった11人はいつか寡

黙で只管機械的に足を運ぶだけとなっていた。2時間ばかり頑張った頃、「ウワーすごい、なにこれ！！」眼下に広がるそれは見事な感激の尾瀬ヶ原。現金なものだ、皆俄然元気が出てきて快調なペースに。ところが人生そうは問屋が卸さない。霧が隼のように忍び寄る。続いて不気味な風が。柴安峠までもう一步の辺り、帽子はおろか臥牙丸すら吹き飛ばし兼ねない程の猛烈な風が吹き荒れる。皆岩に這いつくばっての匍匐前進。やっとのことで辿り着いた頂上では、意地の集合写真を撮るのが精一杯。



去り紺碧の抜けるような澄んだ空に。燧ヶ岳の双耳峰が手に取るよう。尾瀬沼が、尾瀬ヶ原が、くっきり鮮やかに下界に現れる。こぶし会メンバーについにオーラが・・・！

下山路たるへの道は、会津駒ヶ岳や平ヶ岳を正面に見る、心地良い秋の風を背に受けたルンルン気分の爽やか道。思わずスキップをしてしま



御



まう。特に池塘と草紅葉の熊沢田代はまるで桃源郷の様であった。木道脇のベンチで、仰向け

に空を眺め又フルーツを頬張りそして無心でシャッターを押す。いつまでもここに居た～い・・・。



所々きつい下りがあり苦勞する場面



もあったが、予定より若干早く御池に到着。綺麗な温泉で汗を流し、バスに揺られて会津高原

尾瀬口駅へ。鬼怒川温泉での満足感一杯の反省会を経て、若さ溢れるメンバーが波乱万丈の天気^なに乱舞した、中実^ないっぱい^なの充実の山行はフィナーレとなった。



(記&写真・遠井 謙策)

(写真提供・伊藤 久雄)



早々にもう一つの頂き^{まないたぐら}組嶺へと移動することに。

奇跡は将にその時起こる。深い霧も強い風も、あっという間に消え

